

特別展

左川ちか

黒衣の
明星



左川ちか 写真提供：市立小樽文学館

昭和初期のモダニズムの時代、
詩人・翻訳家として生きた
左川ちか 24年の軌跡

2023.11月18日(土) → 2024.1月21日(日)

[開館時間] 9:30~17:00(入場は16:30まで) [休館日] 月曜日[ただし、2024年1月8日(月)をのぞく]、年末年始[2023年12月29日(金)~2024年1月3日(水)]、1月9日(火)

観覧料：一般500(400)円、高大生250(200)円、中学生以下・65歳以上無料

* ()内は10名以上の団体料金

* 土曜日および学校教育活動の一環として観覧する高校生、学校教育活動の一環として観覧する引率教員、身体障害者手帳などをお持ちの方と引率者などは観覧無料となります。詳細は文学館までお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社 後援：札幌市、札幌市教育委員会

北海道立文学館 特別展示室 | 中島公園 | HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE
〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 tel.011(511)7655

<http://www.h-bungaku.or.jp/>

Sagawa Chika

左川ちか(さがわかちか、1911～1936年)は北海道の余市町生まれの詩人です。本別町で幼少期を過ごし、庁立小樽高等女学校(現・小樽桜陽高等学校)に進学。卒業後は上京し、兄の昇やその友人で同郷の伊藤整らと共に、新しい詩の形を求めて翻訳や詩作を始めました。

故郷の景色を詩想へと昇華しながら、ジェームズ・ジョイスやヴァージニア・ウルフなどの翻訳を時代に先駆けて行ったちかは、優れた言語感覚と独自の美学によって当時のモダニズム詩壇の最前線に立ちます。その姿を詩人・萩原朔太郎は「最近詩壇に於ける女流詩人の一人者で、明星的地位にあつた人」と称しました。

そんな道半ば、ちかは24歳の若さで惜しくも病没してしまいます。しかし、その美しい詩と翻訳は、黒色の洋服を好んで着たという独自のスタイルと共に、詩を愛する人々の心に強く残り続けました。

本展では、近年、再評価の機運が高まる左川ちかの詩の世界を、自筆の詩の原稿や詩人たちと交わした手紙、詩や翻訳を発表した雑誌などを通して、北海道の風土と文芸、モダニズム詩壇の興隆、翻訳の時代、現代における再生といった視点で探ります。



毎日朝から洪水のやうに緑がおしよせて来て
バルコンにあふれる。海のをさと草の句を
はこんで息づまるやうだ。風が葉裏を返して
走るたびに波のやうにざわめく。果樹園は林
檜の花ざかり。鮮かに空を限つて咲いてゐる。

(詩「暗い夏」より)



特別展
左川ちか
黒衣の明星

Sagawa
Chika

【関連イベント】

◆講演会 = 展覧会プレ・イベント =

「入門 左川ちか—その〈モダニズム〉の実相」

11月12日(日)14:00～15:00 当館講堂(無料)

講師：高橋秀明(詩人、公益財団法人北海道文学館理事)

* 要申込：10月26日(木)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆ポエトリー・リーディング「左川ちかの詩朗読と室内楽」

11月23日(木・祝)14:00～15:30 当館講堂(無料)

朗読：柴田望(詩人、公益財団法人北海道文学館評議員)

二条千河(詩人)ほか。

ラヴァスト演奏：SAYO

* 要申込：11月9日(木)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆講演と対談

11月26日(日)14:00～16:00 当館講堂(無料)

・講演「左川ちか同時代の女性詩人について」(60分)

講師：川村湊(文芸評論家)

・対談「左川ちかの現代性」(60分)

対談者：川村湊、島田龍(文学研究者)

* 要申込：11月10日(金)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆対談「詩人・歌人からみた左川ちか」

12月9日(土)14:00～15:30 当館講堂(無料)

対談者：文月悠光(詩人)、北山あさひ(歌人)

* 要申込：11月24日(金)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆講演会

「左川ちか同時代の美術について(仮)」

2024年1月14日(日)14:00～15:00

講師：若名直子(北海道立文学館副館長) 当館講堂(無料)

* 要申込：12月26日(火)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆上映会 左川ちかが感銘をうけたと記録が残る映画を上映。

『外人部隊』(ジャック・フェデー監督/1933年フランス作品/109分/DVD上映)

当館講堂(無料)

①11月29日(水)13:30～/②12月20日(水)13:30～/

③2024年1月7日(日)13:30～

* 要申込：11月15日(水)9:00から電話受付(先着順/各回20名)

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

北の大地に生まれた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。

観覧料：一般500(400)円、高大生250(200)円 65歳以上、中学生以下無料。

()内は10名以上の団体料金。高校生は土曜日無料。*詳細はお問い合わせください。

常設展 「文学館コレクション 新収蔵品から」 10月17日(火)～12月28日(木)
文学館アーカイブ 「来道歌人の詠んだ北海道」 2024年1月16日(火)～3月24日(日)

◎次回特別展「100年の時を超える—<明治・大正期刊本>探訪—」

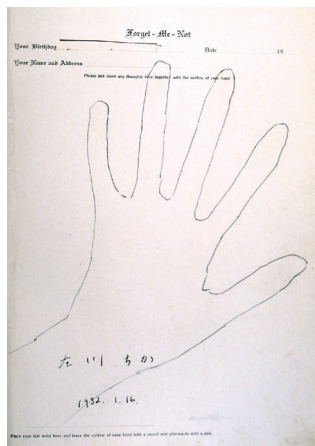
2024年2月3日(土)～3月24日(日) 観覧料：一般500(400)円、高大生250(200)円、中学生以下・65歳以上無料

入館にあたってのお願い

感染対策の観点から皆様に必要なご協力をお願いする場合があります。また、会期やイベント等が変更となる場合もありますのでホームページ等でご確認をお願いします。



©MIGISHI



5



6



7

- 『室楽』(椎の木社、1932年) ジェームズ・ジョイス著、左川ちか訳 当館蔵
- 『左川ちか詩集』(昭新社、1936年) 当館蔵
- 年賀状 左川ちか画、1936年、未投函 複製
- 『左川ちか詩集』挿絵 三岸節子画 複製
- ちかの手形(手形帖)より 複製
- 女学校時代のちか 右より2人目。
- 『ESPRIT(エスプリ)』1号～3号(エスプリ社、1933年12月～34年3月) ちかが北園克衛とともに編集した雑誌。個人蔵

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

●地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または

【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分

●市電【中島公園通】から徒歩10分

●JRバス・中央バス【中島公園入口】から徒歩4分

【お問い合わせ】

tel.011-511-7655

fax.011-511-3266

http://www.h-bungaku.or.jp/

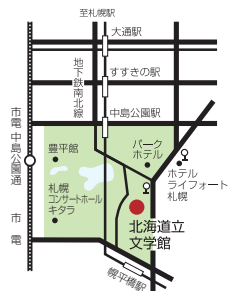
施設設置者：北海道教育委員会

(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)

指定管理者：公益財団法人北海道文学館



当館HP



道立文学館

検索